

管 理 課		主題	電気の見える化から理解る化へ	
省エネ		副題	デマンドシステム導入による施設内省エネ (節電)の取り組み	
コスト意識				
研究期間	12ヶ月	事業所	シャローム東久留米	
発表者：管理課				
共同研究者：シャローム東久留米管理課				
電 話	042-467-1561	メール		
FAX	042-467-3040	URL	www.shalom-tokyo.net	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人 三育ライフ 特別養護老人ホーム シャローム東久留米 管理課 三育ライフ本部として事業全体の遂行・施設全般の管理ほか 財務・会計および資金管理など法人経営に関わるほぼすべての管理業務 を行っている。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》

シャローム東久留米では以前より電気料金を会計上では把握していたが、毎月どのように使用量が変化し料金に影響を与えているのかを把握していなかったため具体的に電気使用量・CO2削減目標を定めることができなかった。

《研究の目標と期待する成果》

省エネ3方策の一つである運用改善に着目、(この方法は特徴としてエネルギー使用状況把握機器導入を前提とするため費用が安くすみ3方策の残り2つである設備改善および調達改善への発展が期待できる)現在のエネルギー(デマンド)使用状況を施設全体で把握することで職員自身による省エネ(節電)に取り組むことができ具体的な電気使用量削減が期待できる。

《具体的な取り組みの内容》

省エネコンサルティングを行っている日本テクノ株式会社の協力で平成 21 年 11 月にデマンド数値化・グラフ化が可能な省エネモニターシステムを事務所に設置、季節ごとに毎月の電気使用量を数値化しグラフによりその傾向を把握・分析、それらの細かなデータを基に目標値を定め約 1 年間デマンド(30 分間の平均電気使用量)管理を行った。

《取り組みの結果と評価》

季節ごとに毎月のデマンドデータを把握・分析した結果シャローム東久留米では午前中は朝 9 時～10 時に午後は 15 時～16 時の間にデマンドのピークが施設の冷暖房その他主要機器の集中稼動により目標値(管理数値)を大幅に超えてしまい 1 日の電気使用量をたとえ抑えたとしてもこの 30 分から 1 時間の間だけで基本料金が上がり電気料金に大きな影響を与えていることがまず解ったので特に使用量が大幅に増える 7 月～9 月は集中的に上記時間帯の低減管理を実施し大きな成果が得られた、またピーク時の管理を集中的に行ったことで日中の稼動時間帯の平均需要電力量も抑えることができ、施設内の主要稼動機器類が個々に使用量にどのくらい影響を及ぼしているかも把握することができた。

《まとめ》

1 年間デマンド管理を行った事で普段管理業務とはあまり関係のない部署の職員の方たちへもある程度省エネ(節電)の意識を持って頂くことができた、今後は主要稼動機器類の発動時間帯を個々にすらし使用量をコントロールするタイムテーブル化や各機器類を省エネ仕様のものに交換していくなどをより具体的に実施していきたい。

《提案と発信》

【メモ欄】